

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 29日

事業所名 放課後等児童デイサービス水蓮

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	・指導訓練室等のスペースは利用者に対して十分に確保されている。その日の利用者の人数を見ながら、密にならないようにしている。 ・パニックを起こした際に利用する個室を用意している。	・事業所内の庭に人工芝を敷き、安全に遊ぶことの出来るスペースを作った。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	1	・職員同士でコミュニケーションを取りながら、業務を行っている。	・今後も連携を取りながら引き続き業務を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	4	2	・階段や浴室には全て手すりを設置している。	・現在は車椅子対応のスロープやトイレは設置されていない。今後、利用者や保護者等で必要な人が出てきた場合は、家主とも相談して改善していきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	1	・子どもを送迎した後にミーティングを行い、全職員で業務改善について話し合っている。	・支援内容の共有化や職員同士のコミュニケーションの活性化を図るためにも、時間を設定し定期的に話し合いの場を設定していきたい。(月曜日・木曜日の午前中)
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	3	1	・送迎の際に話を聞いたりモニタリング等の機会を利用して、常に保護者の意向を確認している。	・保護者アンケートからは、デイサービスの活動内容や支援体制については概ね満足の評価をいただいている。保護者からの意見や要望を職員の話し合いの場で共有し、今後も実務改善に努めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0	・ホームページを開設を行った。	・今後は、ホームページとLITALICO発達ナビを利用しながら発信していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	1	5	・苦情受付窓口には第三者委員を設置しているが、第三者による外部評価は現在行っていない。	・子どもや保護者の満足感、安心感を高めるためにも常にサービスの向上が認められる。保護者や職員以外の第三者に評価を依頼する事で、より客観的な改善点も見えてくるものと考える。地域の自治会や学校、他の放課後等児童デイサービスなどにメンバーになっていただき、第三者による外部評価も導入していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	3	1	・「職員研修計画」を作成し、定期的な研修を行った。	・児童の午前中からの利用等によって計画した研修が実施できないことが多かった。今後は利用児童の実態に沿って研修時間と内容を見直していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	・モニタリングで保護者、子ども双方のニーズや課題を把握した上でサービス計画を作成している。 ・利用期間中に「個別支援中間評価」を作成し、児童の実態に応じてサービス計画を随時更新している。	・子どもと保護者のニーズが一致しない場合もある。また、子どものニーズは生活をしていく上で変化していく事もある。そのため、子どもの状況を日頃から注視し、適切に把握していく事が求められる。ニーズが変わった場合は、本人、保護者とも相談したうえで、利用計画を変更する等柔軟に対応していきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	3	・入所の契約時に統一された形式の用紙に必要事項を記入してもらい、課題やニーズの把握に使用している。	・医療機関や相談支援事業所等で作成されたアセスメントシートは若干様式や項目に違いがある。それらの中から必要と思われる事項を取捨選択するために、本事業所での利用者の状況に合わせてアセスメントシートを見直し、作成していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	0	・職務分担の中で「活動プログラムの作成」担当者を決めており、そこで立案されたプログラムを職員で話し合い、修正や確認を行った上で活動に活かしている。	・子ども達の年齢の幅が広く、抱える障害や発達段階の課題もそれぞれ違うため、集団活動のプログラムには工夫が求められる。子どもや保護者のニーズを踏まえた上で、プログラムもPDCAサイクルにより改善していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2	1	・日頃から地域の公民館や児童館、公園等の社会資源を活用し、屋外遊びを豊かにするよう活動プログラムの充実を図っている。	・創作活動等、活動プログラムによっては外部講師の招聘等も検討し、活動内容の幅を広げていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	0	・平日は宿題を含めた学習支援を一定時間行っている。休日や長期休暇中は時間を設定して、子ども達と一緒に活動プログラムを考えている。 ・児童が自分から自主的にお手伝いや清掃等を行うように声かけをして、「生きる力」を育むようにしている。	・児童の状況や送迎の時間等を見ながら、外遊び(公民館・散歩)などを臨機応変に行っている。 ・行事を通して自然に触れる機会を増やし、季節の変化を感じる等豊かな感性を育むように務めている。利用者の負担を軽減しながら行事を実施していく工夫が必要だと感じている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2	0	・宿題等の学習支援を個別に行い、終了後小集団でのゲームや外遊びに移るようタイムテーブルを作成している。	・活動内容によって障害種別や特性、発達段階、年齢等を考慮したグループ分けを行っている。集団活動では、子ども達が互いの違いを認め、助け合い、認め合いながら自己肯定感を高めていけるように支援している。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	0	・子ども達の送迎前、ミーティングを実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、休校や学級閉鎖により児童が朝から利用する日が多くあり、打ち合わせが出来ないこともあった。	・その日の利用者の送迎の確認、活動内容、必要な配慮等について共通確認をしている。現在は口頭での確認だが、ホワイトボード等に場所を確保して、いつでも視認できるような仕組みを整えていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	1	・子ども達の送迎後、ミーティングを実施している。	・送迎後のミーティングは終業時刻に近い時間時間が短くなりがちである。職員の就業時間を変更する等、支援終了後の時間を確保する必要がある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	・支援提供記録(日報)を児童毎に作成し、毎日記録している。日報を職員が閲覧する事で、子どもの様子や指導方法の共有化を図っている。	・支援提供記録(日報)の記載内容について、統一したルール・基準の作成が必要であると考えている。今後、職員間で検討していきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	・相談支援事業所とも連携を図りながらモニタリングを行っており、利用計画はその都度更新している。	・新型コロナウイルス感染症の拡大のため、対面での実施が出来ない保護者もいる。電話でのモニタリングに加え、可能であればパソコン等を使用したりモートでの実施の可能性についても検討したい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	2	3	1	・ソーシャルスキル・トレーニング等で、社会性の遅れから来るトラブルの予防を図っている。また、遊びや活動の中で、子ども達が交流を通して成功体験を積み重ね自己肯定感が高まるように意識して支援している。	・今年度は常勤の新規職員を3名採用したが、新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、「放課後等デイサービスガイドライン」の読み合わせ等が研修の中で十分出来なかった。次年度はガイドラインを意識しながら活動を工夫・計画していきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	3	0	・サービス担当者会議には主に所長が参加している。必要に応じて児童発達支援管理責任者が参加している。	・サービス担当者会議には主に所長が参加している。職員体制を整えて、必要に応じて児童発達支援管理責任者や児童指導員等複数での参加も検討したい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	0	・学級担任だけでなく、特別支援教育コーディネーターやスクールソーシャルワーカー、管理職とも日頃から情報交換を行っている。	・普通学級に在籍している子どもについては、担任との連携が難しいという現状がある。送迎時の限られた時間ではあるが、連携を密にする工夫をしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1	4	該当者がいない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2	2	該当者がいない	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	3	2	該当者がいない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	3	・市役所の福祉課や教育相談課、学校の特別支援教育コーディネーターには日頃から相談を行い、助言を受けている。	・児童指導員の意識や能力の向上を図るため、県や市町村、社会福祉協議会等が主催する研修には積極的に参加できるようにしていきたい。また、研修参加の機会を確保するためにも、職員体制の充実を図っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	1	・公民館や図書館、児童館等地域の社会資源は積極的に活用している。その際に交流の機会はあるが、まだ意図的な交流は出来ていない。	・今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により児童館等での活動が制限され、交流の機会を持てなかった。次年度はプログラムを工夫する等して、交流活動を実施したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	1	5	・現在協議会へは参加していない。	・協議会の開催状況を確認し、これからは積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	・保護者とは送迎時に直接子どもの状況を伝えていく。保護者が不在の場合は電話やメールで学校送迎時やデイサービスでの子どもの様子を確実に伝えるようにしている。また、その内容については職員間で共通理解を図っている。	・子どもが安心して楽しく過ごせるサービスであるために、保護者と共通認識の上でサービスを提供していきたい。モニタリング時に限らず、必要に応じて保護者とは情報・意見交換を行ってきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	2	4	・一部の子ども達に対しては、家庭で取り組んで欲しい事を書面にして提示するなどの支援を行っている。	・日頃の支援を通して保護者とは信頼関係を築いた上で、支援や助言等を行ってきたい。子ども達それぞれに適した支援を助言するためにも、職員研修等で支援内容を学んでいきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2	0	・サービス利用の契約時に、時間をかけて丁寧に説明している。	・運営規程と重要事項説明書は事務室内に掲示し、必要に応じていつでも利用者や保護者に提示できるようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	0	・モニタリングに限らず、保護者からの相談は随時受けている。必要に応じて学校や専門機関、市町村の障害福祉課等にも相談しながら、助言と支援を行っている。	・保護者の支援は、当事務所だけでは困難な事案もある。相談支援事業所とも連携を密にし、保護者はもちろんの事、兄弟や祖父母等への支援も行っていきたい。また、行政や地域での相談事業も保護者に紹介していきたい。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	5	・現在父母会や保護者会は行っていない。	・子どもたちの障害の程度や社会性、発達段階のばらつきが大きく、保護者の抱えている悩みや不安も様々である。現在はモニタリングや面談等で個別に支援しているが、保護者の意向も確認し開催の是非について検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	1	・苦情解決マニュアルを作成し、苦情があった際には内容を確認し迅速に対応している。	・「苦情申出窓口」を設置し、児童発達支援管理責任者が苦情受付担当者となって対応する。玄関に苦情申出箱を設置し、文書、口頭での申出を受け付けていく。子どもや保護者が遠慮したり躊躇したりすることがないように、日頃から信頼関係を築いていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	2	・現在定期的な会報等は発行していない。請求業務で使用しない「LITALICO発達ナビ」の施設情報の中で、活動内容をブログで発信している。	・現在は行事の後や必要に応じて、不定期に発行している。定期的な発行に向けて準備していきたい。ブログについては、個人情報の取り扱いに十分留意しながら発信していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	5	1	0	・サービス利用の契約時に、「個人情報の第三者提供に関する同意書」と「ブログへの写真掲載に関する同意書」を提出してもらっている。	・これから会報等を保護者向けに発行する予定だが、その際には同意書に記載された範囲内での提供にとどめ、個人情報の漏洩には十分気をつけていきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	3	0	・現在の利用者や保護者には、意思の疎通に特別に配慮しなければならない人はいない。	・自閉症スペクトラム症の子ども等、視覚的に訴えた方が理解が早い子どもがいる。子どもの状況に応じて情報伝達の方法を工夫していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	5	・現在は地域住民を招待する等の活動は行っていない。	・障害のある子ども達への社会理解を進めるためにも、地域・社会に開かれた事業所にしていきたい。地域への情報発信の方法や地域住民を招待した活動等について、今後検討していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4	1	・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは作成済みである。	・作成したマニュアルはまだ保護者には公表していない。マニュアル類を事務室に掲示するとともに、チャート図等の概略図を保護者に配布したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	1	4	・災害発生時の避難先に予定している公民館を、外遊びの場所として普段から利用している。火災等の発生時には、そこが避難先であることを意識しながら移動等を行っている。	・子ども達の利用日が曜日により異なっているため、複数回訓練を計画して、早期に訓練を実施したい。また、行政が作成している防災マップを参考に、災害の種類等によって避難先を変える事などを普段から検討して、柔軟に対応できるようにしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	2	・定期的な研修は行っていないが、虐待が疑われる事例については相談支援事業所や学校、家庭とも連携を密にして防止に努めている。	・職員の勤務実態から平日の午前中に研修を実施したい。虐待に至るには様々な原因があると思われるため、研修内容も工夫していきたい。また、県や市町村、社会福祉協議会等で実施される研修には積極的に参加し、職員に伝達講習して事業所全体で虐待防止に努めていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	1	・身体拘束については重要事項説明書にも明記されていないが、放課後等デイサービス計画には未記載である。	・身体拘束についてはマニュアルや要綱等を作成し、重要事項説明書に明記して保護者に説明していきたい。また、職員研修を通して早期に共通理解を図ると共に放課後等デイサービス計画に記載していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	3	3	・入所時に医師の診断書や検査結果、服薬の有無やアレルギー等を確認し、提出してもらっている。現在利用している児童の中には、食物アレルギーを持っているものはいない。	・提供するおやつや食事はできる限り手作りしている。調理する際に、その日の利用者に合わせた料理を提供している。また、指導員も調理直後のチェックと共に子ども達と一緒にいただく事で、異常の有無を確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	1	・ヒヤリハットは作成済みで、事務室に保管しいつでも記入や閲覧が出来るようにしている。	・職員研修の中でもヒヤリハットの事例検討会を行うなどして、内容を共有して事故防止につなげていきたい。